

|                                                                                                                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                                  |                                                                                                                                                                                                                                    |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <div>事業結果要約報告書</div> <div>— 科学技術振興関係 —</div> <div>公益財団法人 <b>マツダ財団</b> 御中</div> <div>2022 年 2 月 24 日</div> <div>所属機関名 岡山大学</div> <div>申請代表者</div> <div>役 職 准教授</div> <div>フリガナ フクダ フミオ</div> <div>氏 名 福田 文夫</div> <div>マツダ財団から受けた 助成金 120 千円 による事業結果について、<br/>次のとおり報告します。</div> |                                                                                                                                                                  | <div>受付番号</div> <div>2021 KJ-006</div>                                                                                                                                                                                             |
| 助成事業名                                                                                                                                                                                                                                                                          |                                                                                                                                                                  | 公開講座「岡大ピオーネづくり名人をめざそう」<br>(事業期間： 2022 年 6 月 26 日～ 2022 年 9 月 25 日 )                                                                                                                                                                |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                | 計 画                                                                                                                                                              | 実 施 結 果                                                                                                                                                                                                                            |
| 事業内容                                                                                                                                                                                                                                                                           | 日時 2021 年 6 月 5 日、9 月 25 日<br>場所 岡山大学 山陽圏フィールド科学センター<br>対象 小学生 4 年生～6 年生と保護者<br>定員 20 名<br>内容 岡山県特産のブドウ「ピオーネ」の房づくりを通して、果実発育中の変化を感じたり、品質成分を定量する体験を行い、科学的興味を掻き立てる。 | 日時 2021 年 6 月 26 日、9 月 25 日<br>場所 岡山大学 山陽圏フィールド科学センター<br>対象 小学生 4 年生～6 年生と保護者<br>参加者(30 人)<br>内訳 (小中高の先生； 人)(生徒； 15 人)<br>内容 岡山県特産のブドウ「ピオーネ」の房づくりを学ぶ講座を実施した。第 1 回を 3 週間延期して粒間引きを行い、第 2 回にその房の収穫と箱詰めを体験した。<br>講演； 件、発表； 件、シンポジウム； 件 |

## 事業の目的・ねらい

岡山大学のジュニア向け公開講座事業は、小学生に様々な感覚を養ってもらうことを目的としており、その中でも農学部附属山陽圏フィールド科学センターで実施している講座は農業の一面に触れることで、その農作物に関する栽培技術や科学知識を知ったり、体験して、科学的な興味や関心を引き出すことをねらいとしている。今年度は、岡山県特産のピオーネの房づくりを対象としてその名人を目指す中で、ブドウの成長の仕方や販売されるまでの過程を体得してもらい、併せて調べることの面白さも理解してもらう講座を企画した。

## 事業の概要

「岡大ピオーネづくり名人」を目指すために、ブドウの房がどのように育ち、手をかけて、お店に並ぶのかを知ってもらう2回連続の講座を設定した。

第1回は、ブドウの開花後の6月5日に実施日を設定し、ブドウを種なしにする「ジベレリン浸漬処理」と、ブドウの粒数を調整し、樽型のブドウに仕立てる「粒間引き」を行う予定であった。しかし、新型コロナウイルス感染抑制の観点から、実施日を3週間延期して、6月26日に変更した。それ故、公開講座で利用する樹体範囲の果房の「ジベレリン処理」は、枝管理と共に、スタッフで実施し、その様子を講座日に紹介した。受講生は、自分の育てたい房を2つ選び、少し大きくなった段階での「粒間引き」を体験した。基準である40粒になるよう、しっかり数えながら、粒の配置も考えて、粒を間引いていった。受講生はみなさん、プロさながらであった。その後、袋を掛けて、果房を守る作業も体験した。

途中、薬剤散布や枝管理を行うためや、腐敗が発生していないか調査するために、夏季に数回、公開講座の実施補助者と果実袋を外して、果房の状態を確認したが、果粒の腐敗の発生もなく、受講生の皆さんが選んだ粒がとても状態が良いことに驚かされた。

第2回は、収穫時期の設定で、黒色系のブドウ果実がなぜ黒く見えるのかを知ってもらう実験や糖度などの品質の定量を行い、品質に関する知識を得たり、研究スキルを習得する予定であった。しかし、第2回目も、蔓延防止期間中での開催となったため、受講生が集合して過密となる状況避ける必要が生じた。そこで、室内での講義や実験は取りやめにし、3グループに分けて、短時間果樹園に入り、ブドウの収穫を体験することを中心に行った。果実袋を外すと、粒間引き時には1cm程度のしずく型の粒が、大きく生長できていることを目の当たりにして、受講生は静かに喜んでいた。保護者の方やスタッフにブドウを支えてもらって、ハサミで切り落とし、ズシリと重い房をもって、実習室に戻った。実習室では、贈答販売用の箱詰めを体験した。果房を紙セロ袋で包装する際、どの面を見えるように袋詰めすると良いか考えてもらい、箱に安定する位置で納めていった。2房を入れると、ほぼ売り物のような姿となり、自身で間引いたブドウの価値をより深く知ることができた。講座ではできなかった品質評価は、宿題とし、房や1粒の重量を測って一級品を超えているか判断したり、官能検査で品質を評価してもらった。

これらを通して、受講生はみな「岡大ピオーネづくり名人」を目指すという目標を十分に達成できたと考え、岡山大学長名の公開講座の修了証書を授与した。

## 成果・効果

体験できたブドウの栽培管理は一部であるが、果樹園に入り、ブドウの木や果房の育ち方に触れたことで、単にお店で売られている果物としてだけでなく、出来上がるまでに興味を持ってもらうことができた。

実験的な体験を行えなかったのは、残念で、農作業だけでなく違った面白さを教示できたかもしれないが、ブドウを収穫し、満足感を得ることで十分な印象を残せたと考えている。

公開講座の樹体範囲のブドウは、とても高品質で管理力が素晴らしかったが、公開講座後に、持ち帰った房の果粒を測ったら、1粒27gもあったと報告してもらった。しっかり管理することの重要さや、測ることでの発見は印象に残ったと思われる。

## 写真、図

(別ページへ配置)



ブドウの育ち方をみなで学習（6/26）



補助者に指導を受けながら、真剣に粒間引き（6/26）



自身が間引いた、顔より大きい「ピオーネ」の収穫（9/25）



房位置を調整して紙セロ袋包装し、果実箱を完成（9/25）



「岡大ピオーネづくり名人」を目指せたことを評し、修了証を授与（9/25）